

職員による自己評価

A環境面

共同オフィスのため防犯対策が必要
 11Fのため、地震対策が必要
 運河パーク花時計プロジェクトによる
 自然や外部の人とのふれあいが豊富
 文化施設や観光地など外出先が豊富
 建物内テナントの従業員の理解がある

B児童への支援内容

少人数を活かした丁寧な支援
 保護者との距離感が近い
 一人一人の状況に応じた学習プログラム

C関係機関との連携

共同オフィス入居団体によるボランティア
 中区自立支援協議会参加団体との連携
 市内特別支援学校、福祉施設等との連携

D保護者への説明責任・信頼関係

保護者とは日常的に情報効果ができる
 連絡帳やお便りで活動や子どもの状況を伝
 えている

E非常対応

法人主催の防災訓練の他、ビル管理法人によ
 るテナント防災訓練にも参加し、デイスタッ
 プの他に法人事務局の応援が得られる

保護者による評価

A環境面

お出かけを子どもが楽しみにしている
 レイアウト変更で開放的になった

B児童への支援内容

保護者のニーズや課題の分析と計画は普通
 活動プログラムは固定化せず工夫されている
 パソコン教室や壁の絵画が良い
 保護者も参加出来るプログラムがあり楽しい

C事業所からの情報発信

支援内容や負担については説明されている
 子どもの発達状況や課題について共通理解
 ができている
 保護者との面談や支援はされている
 苦情対応の体制はある
 活動概要や行事について会報がある

D非常対応

緊急対応マニュアルがあり、災害・荒天時の対
 応について周知されている
 非常時に備えて定期的に訓練をしている

事業所内での分析

【共通点】

利用者の個性や良いところを引き出していくためのプログラムができている
 保護者とスタッフ、スタッフ間の情報共有の仕組みができてきた
 ミーティングでの意見交換が活発になってきている
 外出プログラムは、利用者の要望を聞き、スケジュールも子どもたちができるようになった
 花時計プロジェクト、チャレンジ・ド・サロンは、スタッフ以外の大人や、障がい当事者との
 関わりが子どもたちにとって良い影響を与えている
 子ども同士がお互いを理解し、支え合う様子が見られるようになってきた

【相違点】

請求等の流れが共有されておらず、保護者からの質問に答えられない時がある
 情報伝達が漏れることがある

分析・検討してみて…

事業所の強み

共同オフィス、特別支援学校との連携
少人数による臨機応変な支援
多様な経験・知識を持つスタッフ
利用当事者の学校とのつながり
他事業所との情報共有
市内特別支援学校との連携

事業所の改善点

環境整備
長期展望の支援計画の策定
要支援度のことなる利用者の受け入れ調整
防災対策
利用者・支援者を増やす

事業所の改善への取り組み

中区障害者自立支援協議会開催研修の活用
業務書類の整備
利用当事者・支援者双方の自立支援・自己決定支援に関する研修開催（キャリアカフェ）
スタッフ間の連携強化
グループラインをつかった情報共有

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

元金沢養護学校副校長でいらした渡邊先生をお迎えして、
これまでに気になっていた子どもの成長に応じて、将来のためのライフスキルアップに取り組みたい。
利用者保護者との関係性は、良好であり、家庭と連携しながら、一人一人の子どもの個性を伸ばしていきたい。
居住環境を考えるとこれ以上の利用者増員は難しく、現状の子どもたちの成長を見守って行きたい。

事業所名 移さびよん ホットスポット

担当者 岡村、山野上